

## Ⅱ 作物別作付(栽培)面積

### 1 水陸稲(子実用)

#### (1) 水 稲

平成23年産水稲(子実用)の作付面積は157万4,000haで、前年産に比べ5万1,000ha(3%)減少した。(表7)

作付面積の動向をみると、昭和44年の317万3,000haを最高に、45年以降は生産過剰基調となった米の需給均衡を図るための生産調整が実施されたこと等から、減少傾向で推移している。(図4)

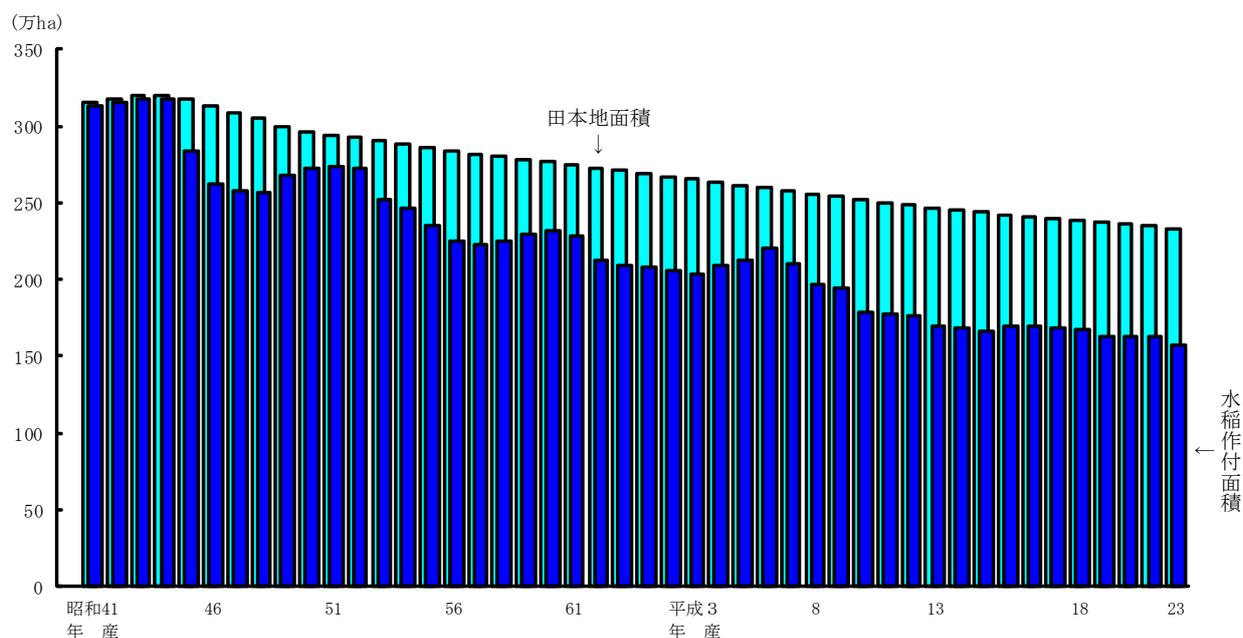
#### (2) 陸 稲

平成23年産陸稲の作付面積は2,370haで、前年産に比べて520ha(18%)減少した。(表7)

表7 平成23年産水陸稲(子実用)作付面積(全国農業地域別)

全 国 農 業 地 域	水陸稲計			水 稲			陸 稲		
	作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較	
		対 差	対 比		対 差	対 比		対 差	対 比
	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%
全 国	1,576,000	△52,000	97	1,574,000	△51,000	97	2,370	△520	82
北 海 道	112,900	△1,700	99	112,900	△1,700	99	-	-	nc
都 府 県	1,463,000	△51,000	97	1,461,000	△50,000	97	2,370	△520	82
東 北	389,000	△30,300	93	389,000	△30,300	93	19	△5	79
北 陸	208,800	△2,100	99	208,800	△2,100	99	3	x	x
関 東・東 山	298,000	△4,400	99	295,600	△3,900	99	2,330	△510	82
東 海	102,400	△2,000	98	102,400	△2,000	98	x	x	x
近 畿	109,300	△1,200	99	109,300	△1,200	99	x	x	x
中 国	115,100	△2,400	98	115,100	△2,400	98	-	-	nc
四 国	56,200	△1,500	97	56,200	△1,500	97	x	x	x
九 州	183,500	△6,500	97	183,500	△6,500	97	x	x	x
沖 縄	921	7	101	921	7	101	-	-	nc

図4 水稲(子実用)作付面積の推移



## 2 麦 類（子実用）

### (1) 4 麦計

平成23年産4麦の作付面積（子実用）は27万1,700haで、前年産に比べて6,000ha（2%）増加した。（表8）

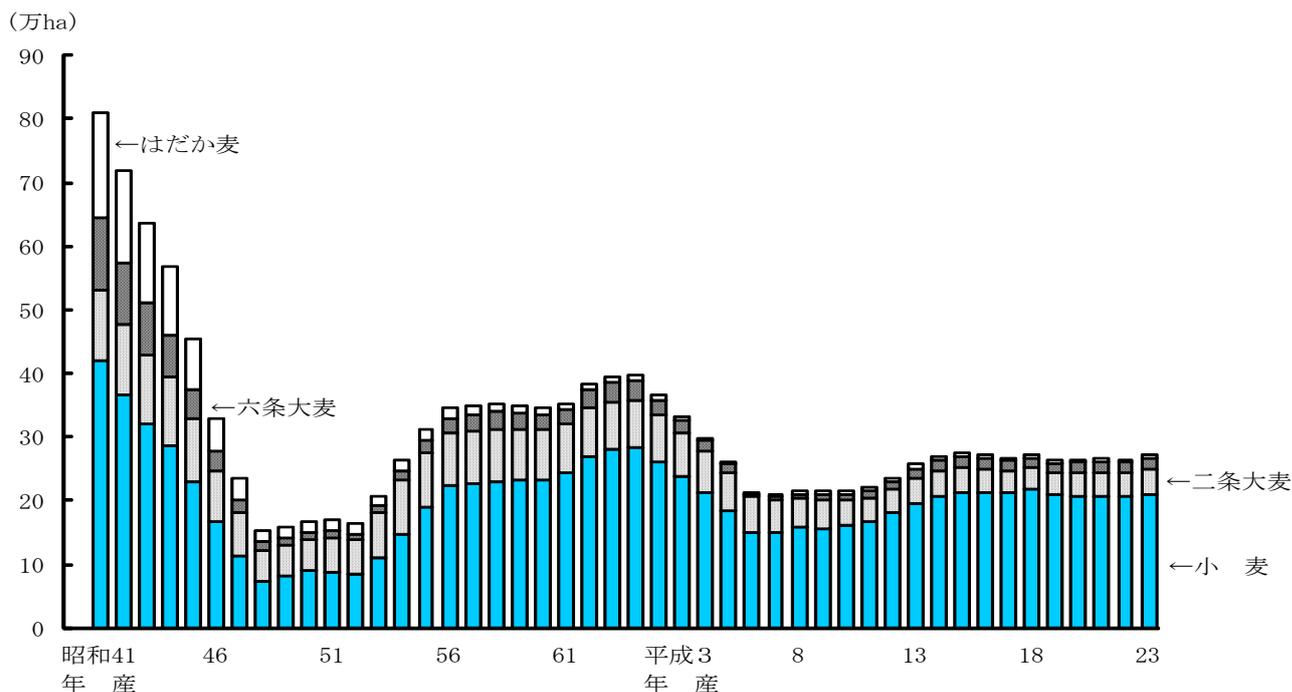
麦種別には、小麦、二条大麦及びはだか麦は前年産に比べてそれぞれ4,600ha（2%）、1,000ha（3%）、410ha（9%）増加し、六条大麦は前年産並みとなった。

作付面積の動向をみると、昭和40年代は作付農家数や水田裏作の減少等により年々減少を続け、48年には15万4,800haと過去最低となった。その後、麦の生産振興策が講じられたことや米の転作作物として田作小麦を中心に増加し、平成元年には39万6,700haとなった。2年以降は作柄が不安定なことや水田裏作の減少等により減少し、7年には21万200haとなった。8年以降は米の需給調整対策の推進等に伴い再び増加傾向で推移している。（図5）

表8 平成23年産4麦（子実用）作付面積（田畑別）

区 分	計			田			畑		
	作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較	
		対 差	対 比		対 差	対 比		対 差	対 比
	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%
4 麦 計	271,700	6,000	102	170,600	3,300	102	101,100	2,700	103
小 麦	211,500	4,600	102	115,800	2,100	102	95,700	2,500	103
二条大麦	37,600	1,000	103	34,200	1,000	103	3,410	20	101
六条大麦	17,400	0	100	15,600	△ 100	99	1,790	10	101
はだか麦	5,130	410	109	4,950	310	107	178	97	220

図5 4麦（子実用）作付面積の推移



(2) 麦種別作付面積

ア 小麦

小麦の作付面積は21万1,500haで、前年産に比べて4,600ha（2%）増加した。（表9）  
このうち、北海道は11万9,200haで前年産に比べて2,900ha（2%）増加し、都府県は9万2,300haで前年産に比べて1,700ha（2%）増加した。

これは、農業者戸別所得補償制度の本格実施に伴い作付けが増加したためである。

イ 二条大麦

二条大麦の作付面積は3万7,600haで、前年産に比べて1,000ha（3%）増加した。（表9）  
このうち、北海道は2,030haで、小麦への転換等により前年産に比べて80ha（4%）減少した。

一方、都府県は3万5,600haで、九州地域等において農業者戸別所得補償制度の本格実施により、また、栃木県等においてビール用の作付け拡大により、前年産に比べて1,100ha（3%）増加した。

ウ 六条大麦

六条大麦の作付面積は1万7,400haで、前年産並みとなった。（表9）

エ はだか麦

はだか麦の作付面積は5,130haで、前年産に比べて410ha（9%）増加した。（表9）

これは、九州、中国地域等において農業者戸別所得補償制度の本格実施に伴い作付けが増加したためである。

表9 平成23年産4麦（子実用）作付面積（全国農業地域別）

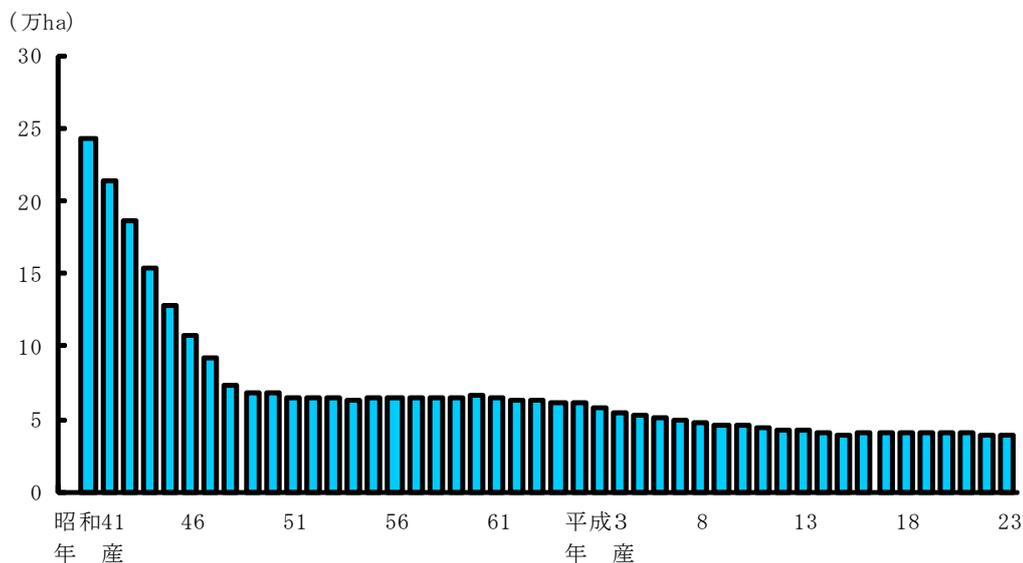
全 国 農業地域	4麦計			小 麦			二条大麦			六条大麦			はだか麦		
	作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較	
		対 差	対 比		対 差	対 比		対 差	対 比		対 差	対 比		対 差	対 比
ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%	
全 国	271,700	6,000	102	211,500	4,600	102	37,600	1,000	103	17,400	0	100	5,130	410	109
北 海 道	121,200	2,800	102	119,200	2,900	102	2,030	△ 80	96	-	-	nc	-	-	nc
都 府 県	150,400	3,100	102	92,300	1,700	102	35,600	1,100	103	17,400	0	100	5,130	410	109
東 北	9,510	△ 280	97	8,110	△ 230	97	8	6	400	1,400	△ 40	97	-	-	nc
北 陸	9,690	△ 20	100	x	x	x	9	△ 3	75	9,530	20	100	-	-	nc
関東・東山	40,200	100	100	21,700	△ 200	99	13,400	500	104	5,080	△ 90	98	101	x	x
東 海	15,600	600	104	15,000	500	103	8	x	x	566	74	115	4	x	x
近 畿	10,500	300	103	9,350	240	103	x	x	x	x	x	x	x	x	x
中 国	4,630	350	108	1,470	60	104	2,700	130	105	100	21	127	361	145	167
四 国	4,480	200	105	1,890	120	107	x	x	x	-	-	nc	2,570	80	103
九 州	55,800	1,900	104	34,600	1,200	104	19,300	500	103	-	-	nc	1,880	200	112
沖 縄	x	x	x	8	0	100	x	x	x	-	-	nc	-	-	nc

### 3 かんしょ

平成23年産かんしょの作付面積は3万8,900haで、前年産に比べ800ha（2%）減少した。

作付面積の動向をみると、昭和40年代はかんしょでん粉の需要低下や価格の低下等により大幅に減少し、その後は漸減傾向で推移している。（図6）

図6 かんしょ作付面積の推移



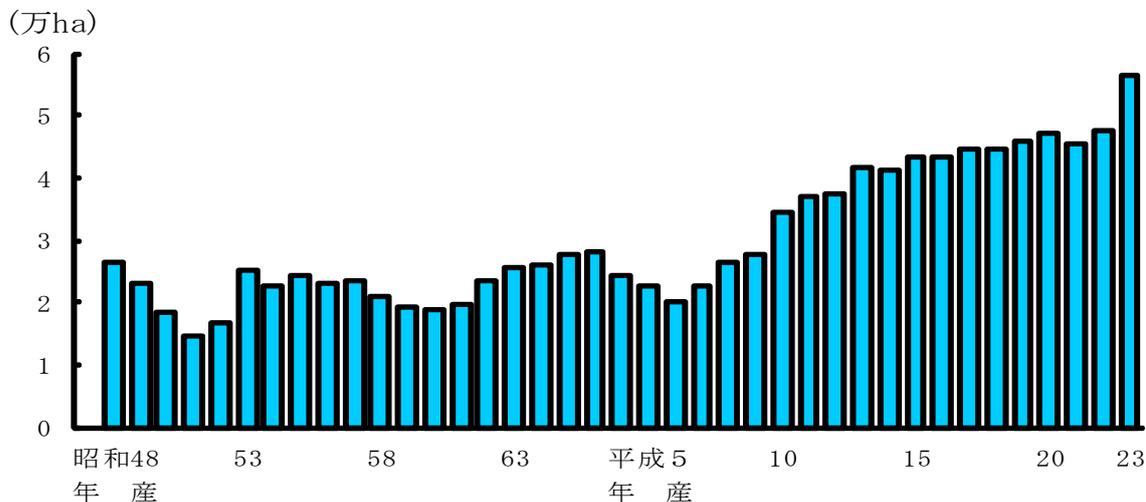
### 4 そば（乾燥子実用）

平成23年産そばの作付面積は5万6,400haで、前年産に比べ8,700ha（18%）増加した。

これは、農業者戸別所得補償制度の本格実施に伴い作付けが増加したためである。

作付面積の動向をみると、昭和61年以降増加傾向で推移した後、米の生産調整目標面積の緩和措置等により平成4～6年は減少したものの、7年以降は米の需給調整対策の推進等により再び増加傾向で推移している。（図7）

図7 そば（乾燥子実用）作付面積の推移



## 5 豆 類（乾燥子実用）

### (1) 大 豆

平成23年産大豆の作付面積は13万6,700haで、前年産に比べて1,000ha(1%)減少した。

(表10)

これは、農業者戸別所得補償制度の本格実施に伴う増加が見られたものの、東日本大震災の影響等により減少したためである。

作付面積の動向をみると、昭和40年代は外国産大豆の輸入の増加により減少傾向で推移した。その後、53年から米の転作作物として田作大豆を中心に増加したものの、63年以降は減少傾向で推移し、平成6年には過去最低の6万900haとなった。7年から15年までは米の需給調整対策の推進等から再び増加傾向で推移していたが、16年以降は上下動のある動きとなっている。(図8)

### (2) 小 豆

平成23年産小豆の作付面積は3万600haで、前年産並みとなった。(表10)

このうち、全国の約8割を占める北海道の作付面積は2万3,800haで、前年産に比べて600ha(3%)増加した。

### (3) いんげん

平成23年産いんげんの作付面積は1万200haで、前年産に比べて1,400ha(12%)減少した。

(表10)

このうち、全国の約9割を占める北海道の作付面積は9,330haで、小豆への転換等により、前年産に比べて1,470ha(14%)減少した。

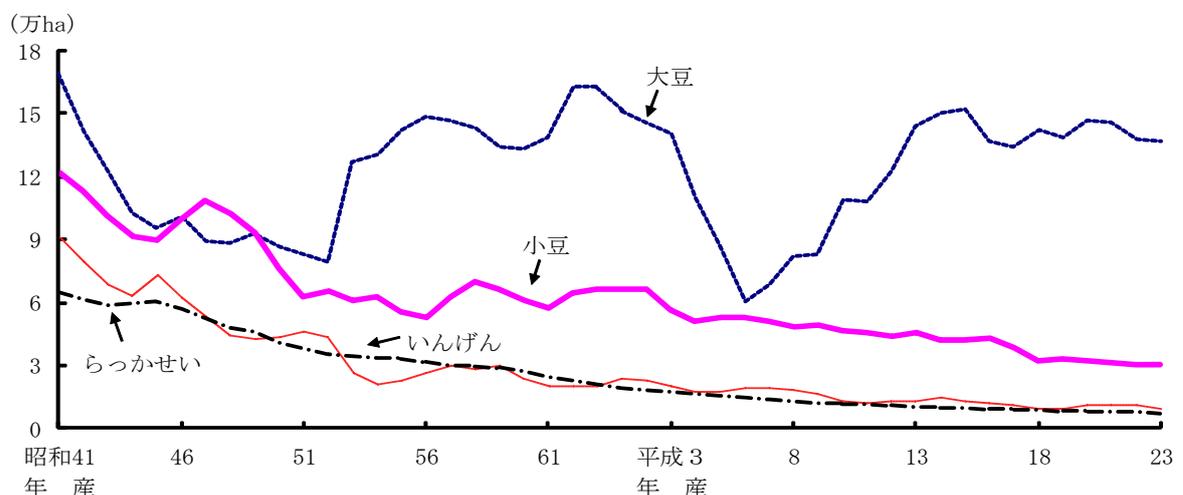
### (4) らっかせい

平成23年産らっかせいの作付面積は7,440haで、前年産に比べて280ha(4%)減少した。

(表10)

このうち、全国の約8割を占める千葉県の前年産に比べて110ha(2%)減少した。

図8 豆類（乾燥子実用）作付面積の推移





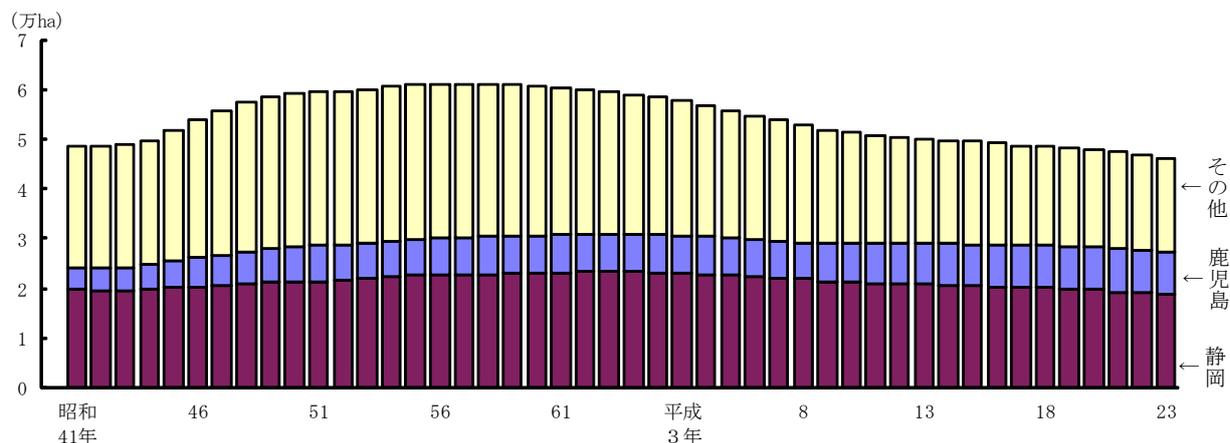
## 7 茶

平成23年茶の栽培面積は4万6,200haで、前年に比べて600ha（1%）減少した。

栽培面積の動向をみると、昭和50年代半ばまでは増加傾向で推移していたものの、それ以降は生産者の労働力事情等により漸減傾向で推移している。

なお、主産地である静岡県においても、近年全国と同様に漸減傾向で推移している。（図10）

図10 茶栽培面積の推移



## 8 飼肥料作物

### (1) 飼肥料作物の作付(栽培)面積

平成23年産飼肥料作物の作付(栽培)面積は103万haで、前年産に比べて1万8,000ha（2%）増加した。（表12）

### (2) 飼料作物の作付(栽培)面積

平成23年産飼料作物の作付(栽培)面積は93万3,000haで、前年産に比べて2万1,600ha（2%）増加した。（表12）

#### ア 牧草

牧草の作付(栽培)面積は75万5,100haで、前年産に比べて4,000ha（1%）減少した。（表12）

これは、青刈りとうもろこし、そば等への転換等により減少したためである。

#### イ 青刈りとうもろこし

青刈りとうもろこしの作付面積は9万2,200haで、前年産並みとなった。（表12）

#### ウ ソルゴー

ソルゴーの作付面積は1万7,600haで、前年産に比べて300ha（2%）減少した。（表12）

#### エ 青刈り麦類

青刈り麦類の作付面積は8,700haで、前年産に比べて300ha（3%）減少した。（表12）

オ その他青刈り作物

その他青刈り作物の作付面積は2万4,900haで、前年産に比べて7,000ha（39%）増加した。（表12）

これは、農業者戸別所得補償制度の本格実施に伴いWCS（ホールクロップサイレージ）用稲（稲発酵粗飼料用稲）の作付けが増加したためである。

カ その他飼肥料作物

その他飼肥料作物の作付(栽培)面積は3万4,400haで、前年産に比べて1万9,100ha（125%）増加した。（表12）

これは、農業者戸別所得補償制度の本格実施に伴い飼料用米の作付けが増加したためである。

表12 平成23年産飼肥料作物作付(栽培)面積

区 分	計			飼料用		
	作付(栽培)面積	前年産との比較		作付(栽培)面積	前年産との比較	
		対 差	対 比		対 差	対 比
	ha	ha	%	ha	ha	%
飼 肥 料 作 物 計	1,030,000	18,000	102	933,000	21,600	102
牧 草	762,900	△ 4,300	99	755,100	△ 4,000	99
青刈りとうもろこし	92,700	△ 100	100	92,200	0	100
ソ ル ゴ ー	30,400	△ 1,400	96	17,600	△ 300	98
青 刈 り 麦 類	57,100	△ 600	99	8,700	△ 300	97
その他青刈り作物	26,800	6,600	133	24,900	7,000	139
れ ん げ	13,500	△ 1,700	89	41	22	216
その他飼肥料作物	46,100	19,400	173	34,400	19,100	225

図11 飼肥料作物作付(栽培)面積の推移

